

中小企業のトレンド(第33回)

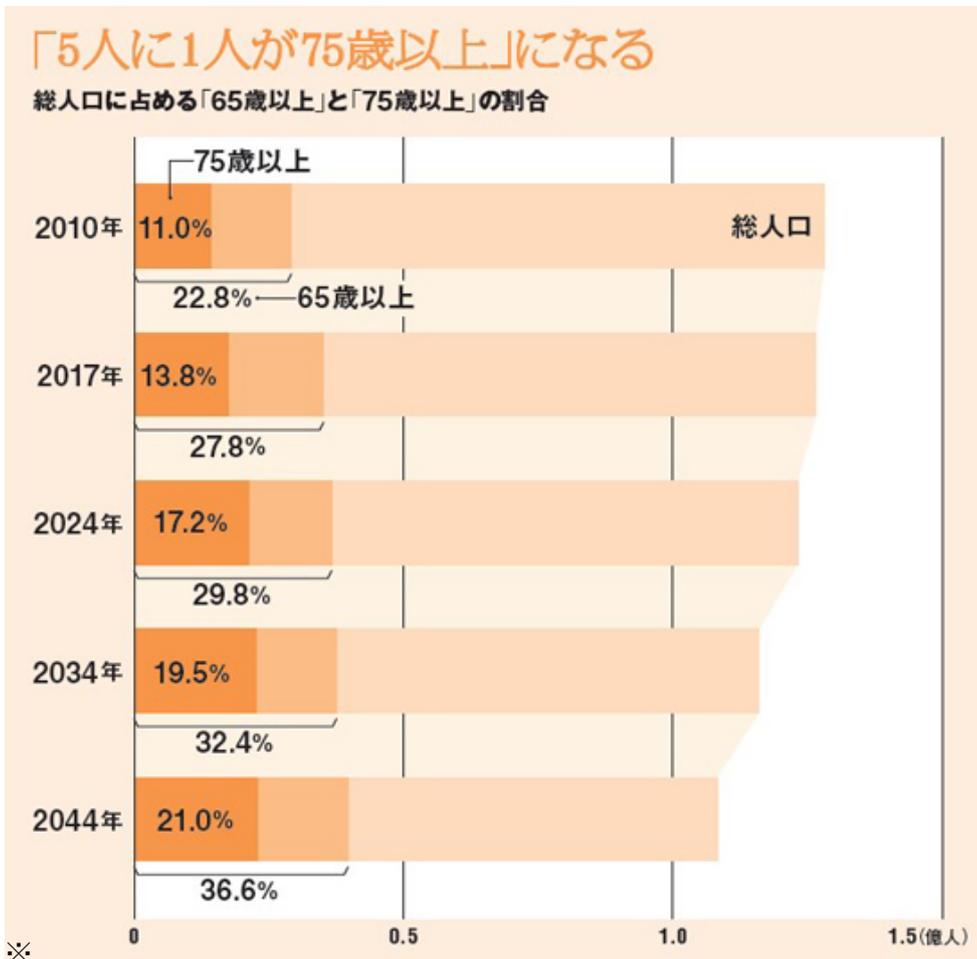
何が起きる？「高齢者の高齢化」が加速する

2018.04.19

――75歳未満の「若いシニア」は、既に減り始めている。75歳以上の比重が高まり、「高齢者の高齢化」が進む。シニア活用が岐路を迎え、外国人採用に本腰を入れる中小企業が増えるだろう。

今、シニア活用の大前提が崩れようとしている。

「元気なシニア」は減りつつある。要介護認定を受ける人は75歳ごろから増える傾向にあるが、それより若い「60～74歳」の高齢者は、2017年から減少に転じている。一方で「75歳以上」は増え続ける(国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」に基づく。以下同じ)。



「国勢調査」(総務省)と「日本の将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)を基に日経トップリーダー編集部が作成

24年、団塊の世代が75歳以上になる。このとき、75歳以上の高齢者は2120万人を超え、総人口の17.2%を占める。それに対して、60～74歳は1550万人ほど。17年から200万人以上減り、75歳以上より少ない。シニア活用は大きな転機を迎える。

『若い人がいないから、高齢者で何とかする』という、穴埋め的なシニア活用は行き詰まる』と警告するのは、老年学(ジェロ

ントロジー)の観点から、シニア活用のコンサルティングなどを手掛ける自分楽(東京・文京)の崎山みゆき代表だ。「今のシニア世代の特徴を踏まえて、採用戦略を立てるべきだ」と訴える。

元気なシニアは忙しい… 続きを読む